

## これもタスク？チーム医療に臨床検査技師は必須？

～FLS チームの活動紹介～

◎小木曾 美紀<sup>1)</sup>  
医療法人 大医会 日進おりど病院<sup>1)</sup>

## 【当院の紹介】

当院は、愛知県日進市（人口約 9.6 万人）の中核病院として病床数 129 症、二次救急医療機関、15 の診療科で地域医療に貢献している。その他にも健診センター、在宅医療センター、有料老人ホーム等併設し地域に根付いた医療提供を行っている。

## 【当臨床検査科が参画しているタスクシフト・チーム医療・診療支援について】

タスクシフト：超音波造影、内視鏡生検鉗子、静脈路確保

チーム医療：ICT、在宅診療検査（採血・心電図・エコー・検体採取）、FLS チーム、  
ワクチンユニット、NST、クリニカルパス

診療支援：検体採取（鼻咽頭ぬぐい）、外来及び病棟採血、肝炎外来・乳腺外来など

## 【FLS について】

骨折リエゾンサービス（Fracture Liaison Service : FLS）とは、多職種連携により、軽度の転倒などでも起こる脆弱性骨折患者に対する「骨粗鬆症治療開始率」「治療継続率」を上げるとともに、転倒予防を実践することで二次骨折を防ぐ取り組みで、令和元年に、「日本版 二次骨折予防のための骨折リエゾンサービスクリニカルスタンダード」が策定され、令和 4 年度診療報酬改定では、大腿骨近位部骨に対して、同スタンダードや「骨粗鬆症の予防と治療ガイドライン」に沿って継続的に骨粗鬆症の評価や治療等を実施した場合の評価として二次性骨折予防継続管理料、また 75 歳以上の大腿骨近位部骨折患者に対し、適切な周術期の管理を行い、骨折後 48 時間以内に骨折部位の整復固定を行った場合の評価として緊急整復固定加算等が新設された。

## 【当院の FLS チームの活動について】

令和 4 年 9 月より FLS チームを発足し、活動を行っている。令和 6 年 7 月現在のチームメンバーの職種は、医師（整形外科）、薬剤師、看護師（外来・病棟・OPE 室）、理学療法士、言語聴覚士、臨床検査技師、診療放射線技師、管理栄養士、医療ソーシャルワーカー、医事課職員、病院事務長で構成されており、他の医療チームと比較しても院内ほぼ全域の職種で構成されていることが一番の特徴であり、かつ地域の医療機関や施設との連携が不可欠となっている。

## 【FLS チームでの臨床検査技師の役割】

主に担当しているのは、検査依頼と結果の管理であるが、骨粗鬆症関連検査は保険点数の縛りが複雑であるため、骨代謝の評価が適切なタイミングで行われるように検査時期をコントロールし、依頼を出してもらっている。また使用する薬剤の種類により骨形成マーカーの選択を行う必要もあり、医師が薬剤治療効果評価を行う上で有用となる検査項目の提案を行っている。

## 【FLS チームへの今後の関わりと目標】

検査結果より骨代謝評価を骨密度結果と併せて FLS チームカンファレンスで提示することで薬剤治療効果、骨折リスク評価等を患者に還元できるような活動をしていきたいと考える。また、検査領域のみならず多職種業務内容を理解するために骨粗鬆症マネージャー資格にも挑戦していきたいと考える。

## 【最後に（私見）】

令和 6 年度診療報酬改定の基本的視点と具体的方向性の中に各職種がそれぞれの高い専門性を十分に発揮するためのタスクシェアリング/タスクシフティング、チーム医療の推進がある。臨床検査技師のタスクシフト業務は、見渡すと多岐に渡ると思われる。積極的な参画、提案をして施設内での存在感を発揮し続けることで、チーム医療には臨床検査技師なしでは回らないと言わせる立ち位置を築いていくことが大切なのではないかと考える。